

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物
The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

クロツラヘラサギ

Platalea minor Temminck & Schlegel, 1849

山本裕（公益財団法人日本野鳥の会）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 鳥類分科会



令和8（2026）年3月



特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：山本裕，2026. クロツラヘラサギ. 環境省（編）第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 544-548.

Citation: Yamamoto, Y., 2026. *Platalea minor* Temminck & Schlegel, 1849. In: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 544-548.

ペリカン目 Pelecaniformes トキ科 Threskiornithidae

クロツラヘラサギ

Platalea minor Temminck & Schlegel, 1849

カテゴリー判定結果

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

D1

基準 A: —

基準 B: —

基準 C: —

基準 D: VU

基準 E: —

D1. 個体群が極めて小さく、成熟個体数が 1,000 未満と推定される。

【推定根拠】

2023 年 1 月の世界一斉センサスにおいて、国内では 640 羽が観察され、内訳は成鳥 80 羽、幼鳥・亜成鳥 92 羽が確認され、不明 468 羽である。

評価分科会： 鳥類分科会

概要

クロツラヘラサギは、朝鮮半島西海岸などで繁殖し、中国大陸沿岸部、台湾、香港、日本などの東アジアに約 6,600 羽が生息する。水辺に生息し、干潟や河口などの浅水域で魚類、エビ等の甲殻類を採餌する。日本では以前は稀な冬鳥であったが、近年は九州、沖縄を中心に約 640 羽が越冬している。生息地では埋め立て、堤防の設置などが進み生息域が狭められつつある。世界的に局地的な分布をしており、生息環境の悪化、減少が続いている。

協力者： 日本クロツラヘラサギネットワーク

基礎情報

【形態】

全長は約 74～82 cm。雌雄同色。全身白色で、成鳥では嘴と目の周り、脚は黒色。嘴はへら状で幼鳥ではピンク色を帯びるが成長するにつれて黒くなり、横縞状に隆起する。繁殖期の成鳥は冠羽がのび、胸とともに黄色を帯びる。目先の皮膚も黄色くなる。

【生活史】

無人島の岩だなに営巣し、5 月下旬～6 月上旬に 3 卵を生む。雌雄交代で 26 日間抱卵し、雛はふ化後約 40 日で巣立つ。飼育下で確認された繁殖開始年齢は、メスで 3 歳、オスでは 5 歳である。日本では 4 月下旬から越冬地から繁殖地へと渡り始めるが、若鳥ではそのまま越夏する個体も見られる。

【生息環境】

水辺に生息し、干潟、河口、池、用水路などの浅水域で魚類や甲殻類、貝類、昆虫類等を採餌する。潮が満ちたときは河口近くのヨシ原や干潟、堤防、中州、畑地、調整池、埋立地、川辺の低木林際などで休息する。

生息環境区分：	【陸域_平地部 海岸部】田地・畑地，湿地・湿原，砂地・礫地，河川下流域，河口域，農業用水路，小河川，ため池・池沼，砂浜・礫浜，海崖・岩浜・岩礁（磯），汽水域，塩沼地・塩性湿地・河口干潟 【海域（沿岸）_潮間帯 表層】海面，岩礁（磯），砂底・礫底，泥底
国土地域区分：	(2) 里地里山・田園地域，(4) 河川・湿地地域，(5) 沿岸域

【分布域】

朝鮮半島西海岸、中国遼寧省沿岸及びロシアのピョートル大帝湾周辺の無人島で繁殖し、朝鮮半島南西部の韓国済州島、中国大陸沿岸、台湾、香港、マカオ、ベトナム、カンボジア、日本で越冬する。国内では九州と沖縄が主要な越冬地である。

現在の生息状況

【分布域の現況】

日本では従来まれな冬鳥であったが、近年は、福岡県、佐賀県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、長崎県、大分県、沖縄県、山口県で定期的に越冬する。越冬数が最も多いのは熊本県、次いで福岡県である。有明海、瀬戸内海西部での越冬が増加傾向で、その他、四国や東日本の一部などでも少数が観察される。モニタリングサイト 1000 シギ・チドリ類調査第 2 期とりまとめ報告書では、第 1 期の 2004 年から 2007 年にかけて 172～263 羽、第 2 期の 2008 年から 2012 年にかけて 309～328 羽、モニタリングサイト 1000 シギ・チドリ類 2004-2017 年度とりまとめ報告書では 2013 年から 2017 年にかけて 368～402 羽、2018 年から 2021 年には 425～540 羽と増加傾向であったが、2022 年には 425 羽となっている。香港バードウォッチングソサエティが呼びかけ、国内では日本クロツラヘラサギネットワークが中心になり毎年 1 月に実施している世界一斉センサスでも増加傾向で 2022 年に 683

羽であったが、2023 年にはやや減少し 640 羽である。

【生息地の現況】

世界分布では台湾台南市周辺、香港などで集中している傾向がある一方、日本では九州・沖縄が中心で、これらの地域の各地において小グループずつが分散して越冬している。日本での生息地は、多くの地域で埋め立てや道路建設、河川改修、堤防工事などによる環境の変化が進んでおり、生息環境は狭まってきている。海岸の開発による生息地減少やそれに伴う餌生物の減少が考えられ、餌生物からの有害化学物質の摂取も懸念される。また、嘴を水中で左右に振る採餌法のため、釣り糸が嘴に絡んだり、飛翔時に電線等に翼があたり骨折する事故も発生している。

【個体数の現況】

総生息確認数は近年増加傾向にあり、世界一斉センサスでは、1990 年代初期の約 300 羽から、1995 年には約 500 羽、2000 年には約 660 羽、2005 年には約 1,500 羽、2010 年には約 2,400 羽、2015 年には約 3,300 羽、2020 年には約 4,900 羽、そして、2023 年には 6,633 羽となっている。2023 年の内訳は、台湾 4,228 羽、中国本土 1,307 羽、日本 640 羽、后海湾（香港、深圳）299 羽、ベトナム 80 羽、韓国 54 羽である。国内で確認された 640 羽の内訳は、熊本県 181 羽、福岡県 126 羽、鹿児島県 83 羽、佐賀県 79 羽、沖縄県 61 羽、山口県 45 羽、宮崎県 40 羽等であった。

存続を脅かす要因

生息地周辺で、埋め立てや河川改修、堤防・鉄道橋りょう建設などにより環境の悪化が進んでいる。海岸の開発や後背地の整備などによる生息地の減少もあり、餌生物の減少が懸念される。生息地が住宅地に近い所では、釣り糸や防鳥ネットへの絡まり、電線への衝突などによる事故が発生している。この他に、集中越冬地でのボツリヌス菌、高病原性鳥インフルエンザウイルスへの感染が懸念される。

要因の区分：	（過去）	湖沼開発，河川開発，海岸開発，湿地開発，交通インフラ建設，ダム・河川工作物建設，水質汚濁，農薬汚染/化学物質汚染，感染症/病原菌，人工構造物への衝突
	（現在）	湖沼開発，河川開発，海岸開発，湿地開発，交通インフラ建設，ダム・河川工作物建設，農薬汚染/化学物質汚染，感染症/病原菌，人工構造物への衝突

特記事項

東アジアに局所的に分布する種で、学術的に貴重である。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020： クロツラヘラサギ

Platalea minor

EN

第4次 2019:	クロツラヘラサギ	<i>Platalea minor</i>	EN
第4次 2018:	クロツラヘラサギ	<i>Platalea minor</i>	EN
第4次 2017:	クロツラヘラサギ	<i>Platalea minor</i>	EN
第4次 2015:	クロツラヘラサギ	<i>Platalea minor</i>	EN
第4次:	クロツラヘラサギ	<i>Platalea minor</i>	EN
第3次:	クロツラヘラサギ	<i>Platalea minor</i>	CR
第2次:	クロツラヘラサギ	<i>Platalea minor</i>	CR
第1次:	クロツラヘラサギ	<i>Platalea minor</i>	R

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和6年度末時点）

【北海道】情報不足(Dd), 【秋田県】情報不足(DD), 【山形県】絶滅危惧ⅠB類(EN), 【茨城県】絶滅危惧ⅠB類, 【千葉県】最重要保護生物(A), 【東京都（本土部）】絶滅危惧ⅠA類(CR), 【東京都（区部）】絶滅危惧ⅠA類(CR), 【富山県】情報不足(DD), 【石川県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN), 【福井県】県域絶滅危惧Ⅰ類, 【愛知県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)(越冬), 【三重県】情報不足(DD), 【兵庫県】Cランク, 【鳥取県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN), 【島根県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【岡山県】絶滅危惧Ⅰ類, 【山口県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【徳島県】絶滅危惧ⅠA類(CR), 【愛媛県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN), 【福岡県】絶滅危惧ⅠB類(EN), 【佐賀県】絶滅危惧Ⅰ類種, 【長崎県】絶滅危惧ⅠB類(EN), 【熊本県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【大分県】絶滅危惧ⅠA類(CR), 【宮崎県】絶滅危惧ⅠA類(CR-r), 【鹿児島県】絶滅危惧Ⅰ類, 【沖縄県】絶滅危惧ⅠB類(EN)

保護に係る法令指定状況（令和7年度末時点）

国内希少野生動植物種，鳥獣保護管理法

参考文献

- Chong, J. R., U. I. Pak, C. Y. Rim and T. S. Kim, 1996. Breeding biology of Black-faced Spoonbill *Platalea minor*. Strix, 14: 1-10.
- 日本クロツラヘラサギネットワーク編，2020. 2019～2020 クロツラヘラサギ調査報告書. pp. 43. 日本クロツラヘラサギネットワーク，八代市.
- 日本クロツラヘラサギネットワーク編，2023. 2022～2023 クロツラヘラサギ調査報告書. pp. 37. 日本クロツラヘラサギネットワーク，八代市.
- Sung, Y. H., Ivan W. L. Tse and Y. T. Yu, 2018. Population trends of the Black-faced Spoonbill *Platalea minor*: analysis of data from international synchronised censuses. Bird Conservation International, 28: 157-167.
- Takano, S. and Y. Henmi, 2012. The influence of construction a Shinkansen bridge on Black-faced Spoonbills *Platalea minor* wintering in Kyushu, Japan. Ornithological Science, 11: 21-28.

- Ueta, M. and R. Kurosawa (eds.), 2000. Conservation and research of Black-faced Spoonbills and their habitats. Proceedings of the international workshop in Tokyo, 1997, pp. 65. Wild Bird Society of Japan, Tokyo.
- Yu, Y. T. and S. Cornelis, 2004. Habitat use of the black-faced spoonbill. Waterbirds, 27: 129-134.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Platalea minor has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Platalea minor* is listed as VU under criteria D1.

D1. Population size estimated to number fewer than 1,000 mature individuals.

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Plain, Beach】 Farmland, Wetland, Sandy area/Gravelly area, Lower river basin, Estuary, Agricultural ditch, Small river, Reservoir/Pond, Sandy beach/Pebble beach, Sea Cliff/Rocky beach/Reef, Brackish water, Salt marsh/Intertidal mudflat (including mangrove wetland) 【Marine area (Coastal area)_Intertidal zone, Surface water】 Sea surface, Reef, Sandy bottom/Gravelly bottom, Muddy bottom
Threat types:	Lake development, River development, Coastal development, Wetland development, Transportation infrastructure construction, Dam/River structures construction, Pesticide/Toxic chemical pollution, Disease, Collision with man-made structures
Law designation status for conservation	Nationally rare species of wild fauna and flora. Wildlife Protection, Control, and Hunting Management Act.



©瀬古智貴 ((公財)日本野鳥の会)



©瀬古智貴 ((公財)日本野鳥の会)

執筆者: 山本裕 (公益財団法人日本野鳥の会)
 Author: Yutaka Yamamoto

公表年月: 2026 年 3 月